S7

イタリア手話とフランス手話の時の構文：従属接続か等位接続か

ヴァレンティナ・アリストデモ、シャルロット・ハウザー
（フランス、パリ・ディドロ大学）

要旨
背景：時を表す構文は、典型的には従属接続を伴う。たとえば英語やフランス語ではそうである。しかし、それが唯一の方法というわけではない。多くの言語が、時の表現のために並置構造や等位接続を用いる（参考文献 [3]）。このような統語構造を区別するのに有用な基準は、たとえば依存（参考文献 [4] ）や非対称取り出し（参考文献 [5] ）などである。本発表では、これらの評価基準を用いて、フランス手話に見られる時の表現の構文を調査する。フランス手話の構文をイタリア手話の構文と対照し、両者の間には統語論的な違いがある（一方が等位接続、もう一方が従属接続である）ことを示す。

データ：イタリア手話とフランス手話における時を表す節の基本構造を (1) と (2) に示す。

(1) イタリア手話
_____ __re
a: ジャンニ　買う　花、　前に　マリア　盗む　自転車
_____ _re
b: ジャンニ　買う　花、　後で　マリア　盗む　自転車
_____ ___re
c: ジャンニ　買う　花、{ 瞬間　同じ / 瞬間　PI }　マリア　盗む　自転車

「ジャンニが花を買う前に／買った後で／買うのと同時に、マリアが自転車を盗んだ」

(2) フランス手話
a:　ジャン　買う　花、　前に　マリー　盗む　自転車
b:　ジャン　買う　花、　後で　マリー　盗む　自転車
c:　ジャン　買う　花、　{ 瞬間　同じ / *瞬間　PI }　マリー　盗む　自転車
「ジャンが花を買い、その前に／その後で／それと同時にマリーが自転車を盗んだ」

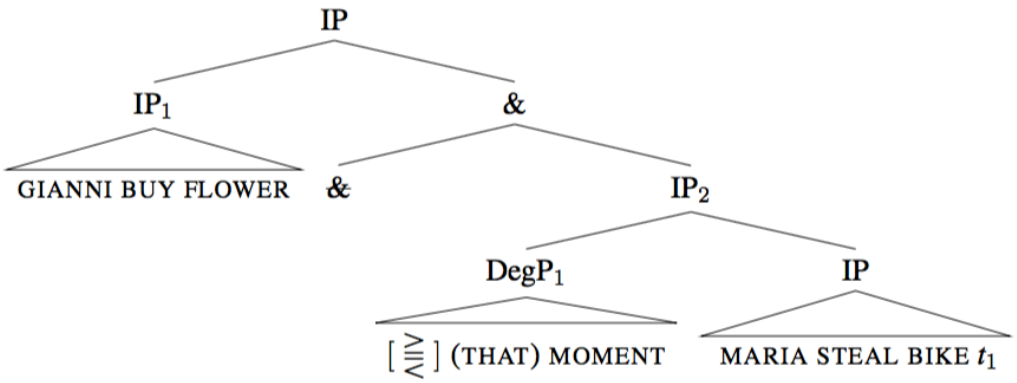
イタリア手話とは異なり、フランス手話では、前半の節に非手指動作が現れず、「～する前に」の節に否定が現れず、「～と同時に」の節に関係節標識 PI が現れず、二つの節はそれぞれ独立して現れ得る。最後に、例 (3) – (4) に見るとおり、フランス手話では語順を変えると意味が変わるのに対し、イタリア手話ではそもそも語順を変えることができない。

(3) イタリア手話： * 後で、　マリア　盗む　自転車、　ジャンニ　買う　花
(4) フランス手話： # 後で、　マリー　盗む　自転車、　ジャンニ　買う　花
「後で、マリーは自転車を盗み、ジャンは花を買う」

分析：このような差異から、二つの言語にはそれぞれ異なる統語論的分析が必要となる。イタリア手話の時の節は従属接続構造であり、主節の左に付加された程度句の補部の位置に、関係詞を含む時の節が存在している。これを支持する証拠として、二つの節の間にある非手指動作の違い、取り出しの非対称性、二つの節はそれぞれ独立しては現れ得ず、「～と同時に」の節に現れる関係節標識 PI（参考文献 [2] ）が挙げられる。

本発表では、イタリア手話の特徴とは対照的な特徴をフランス手話が示すことから、フランス手話の時の節は等位接続構造を持ち、後ろの節には指示代名詞が含まれているのだ (4) と主張する。参考文献 [1] と同様、時の節の標識は比喩の標識であって、出来事の時点を場所として図示的にマッピングしているのだと主張する。この図示的表示が、代名詞的要素として解釈される (5)。

(1)



参考文献

[1] Aristodemo *et al*. 2016. Temporal Construction in LIS, Talk Presented at FEAST 2016.
[2] Branchini & Donati. 2009. Relatively Different: Italian Sign Language Relative Clauses in a Typological Perspective
[3] Cristofaro. 2005. *Subordination*, Oxford University Press
[4] Haspelmath. 1993. *A Grammar of Lezgian*. Mouton de Gruyter
[5] Ross. 1967. *Constraints on Variables in Syntax*. Doctoral dissertation